

令和5年度 上田市立東小学校 学校自己評価シート(最終評価)

学校目標	めざす子ども像
よく気づき よく考え よく働き よく進んで学ぶ子ども	1 自分で気づき 自分で考え 進んで学ぶ子ども(自主性) 2 よく働き 最後までやりぬく子ども(意志力) 3 手足を動かし 進んで体を鍛え 頭を働かせ 豊かに感じとれる子ども(豊かな情操) 4 一人一人のよさを認め 助け合える子ども(共生) 5 安全に気をつけ 進んで身体をきたえる子ども(健康安全)
今年度の重点目標(重点活動)	
「つながっている ことが実感できる 幸せな学校」 ～響く「あいさつ」 輝く「笑顔」として 「成長」と「自信」～	探究的な学習による 学びの質の高まりを 実感できる授業 ○聴き合い 伝え合って 学びをつなげる ○じっくり考え しっかり書いて 学びをつなげる
	挨拶・思いが響き合い 人や物を大切にす 心が育つ学校 ○あいさつと返事で人と人の心をつなげる ○よさやちがいを認め合いながらつなげる
	健やかでたくましい 身体に育つ安全で 活力がある学校 ○体づくりで健やかさとたくましさにつなげる ○気づき清掃の推進で奉仕の心につなげる

総合評価					
・授業では、友の考えと自分の考えを比べ、よりよい納得解を見つけながら、自分なりの追究ができる子どもの姿が増えてきている。 ・運動会・音楽会などの行事や清掃・児童会活動などでは、自分の役割や分担に対して、しっかりと責任をもって最後までやりぬこうとする子どもが増えている。 ・あいさつに対しては、【あいさつステップアッププロジェクト】を行い、めあてをもって取り組み、自己の成長を感じながら自信をもってあいさつができる子どもが増えている。 ・自分とは異なる友の考えを尊重し前向きに受け入れ、自分の考えに積極的に取り込もうとする子どもが増えている。 ・休み時間、友達を誘って体育館や校庭で精一杯、体を動かし、汗をながら笑顔いっぱい楽しんで遊ぶ子どもが増えている。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
・学校長の年度当初の投げかけにより、人と人を「つなぐ」第一歩に「あいさつ」を位置付け、「あせらず・あきらめず」の一点突破を図りながら、全校で挨拶が響き渡る元気と活力のある学校を目指し、【あいさつステップアッププロジェクト】を年間を通して実施した。 ・各学級担任(全教職員)も、しっかりと足並みを揃えて、子どもたちに対してこの「めあて・取組内容」を意識づける工夫した取組を展開し、あいさつに対して自信がもて、子どもたちの「あいさつ」に対する意識が高まった。		○			・自己肯定感が低い児童に対して、「周りの人たちの比較」をするのではなく、以前の自分より、「これだけ頑張れた・成長できた」という前向きな自己評価ができるように意識づけていく。 ・一人一人が「自信」をもって、「自らあいさつ」をし、その自己の姿を「自分ってあいさつを頑張っている」「自分って成長しているかも」という自己肯定感(笑顔・成長・自信)に結びつくように今年度のあいさつの取り組みを児童会活動とつなげながらバージョンアップを図っていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	学び合い	聴き合い 伝え合って 学びをつなげる	・ペアやグループでわからないことや互いの考えを聴き合い、自分たちの考えを深め合う学習場面を設定しているか。 ・自分の考えを相手にわかるように伝えるために、わかりやすい伝え方の指導をしたり、伝えようとする場面を設定したりしているか。
		じっくり考え しっかり書いて 学びをつなげる	・「学習問題」「まとめ」を板書計画に位置づけ、授業の流れがわかる板書の工夫ができたか。 ・学んだ内容を書いたり、学び方を振り返ったりする時間を確保し、子どもの考えの変容や定着状況を確認しているか。
	響き合い	あいさつと返事で人と人の心をつなげる	・積極的な声がけや子どもたち会との連携で、相手に伝わる気持ちのよい挨拶を自覚させ、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。 ・「はい」で反応するつながりのよさを実感させる雰囲気作りを進ん ・「プラス言葉」を使い、「寛容」の気持ちで折り合いをつける人権感覚を育てたり、よさを全体に広げたりすることを行っているか。
		よさやちがいを認め合いながらつなげる	・違いを認め合いながら、学年や学級の枠を越えて、つながり合う交流活動の機会を設けているか。
	磨き合い	体づくりで健やかさとたくましさにつなげる	・子どもたちが体を動かすことのよさを体感したり、新たなことに挑戦したりして、成長や自信に結びつく取組ができたか。 ・めあてをもって継続的に校庭や体育館で運動に親しんだり、体力向上に取り組めたりすることができたか。(マラソンや縄跳び等)
		気づき清掃の推進で奉仕の心につなげる	・「時間いっぱい/すみずみまで/ひざつき」の清掃等、具体的な清掃の方法を指導し、自分から気づいて前よりきれいにすることで、協働することのよさや奉仕の大切さを意識させることができたか。
学校運営	地域との連携	地域学習とキャリア教育で地域とつなげる	・生活科、社会科、総合的な学習等で地域学習を位置付けて、地域の人、もの、ことと関わり合える授業づくりができたか。 ・地域の名人、達人を授業に招き、地域のよさ、人のすばらしさを学んだり、自分の生き方を考えたりする機会となったか。
		共に学校を拓き信頼関係をつなげる	・学校、学年、学級だよりや学校ホームページ、オクレンジャーでのメール送信等を通して、学校での子どもたちの学びの様子や家庭連絡を保護者や地域に発信することができたか。またうれしかったことや心配なことなど個別に連絡を取ったりすることができたか。
	教職員の姿勢	教職員集団を学びと成長へとつなげる	・温かな眼差しで、子どもの変容をゆっくりと待ち、子どもと共に学び、共に成長することができているか。 ・何事も新しい発想で、前向きに、一歩でも前進しようと挑戦を試みようとしているか。
		あらゆる垣根を越えてチームによる支援体制へとつなげる	・子どもたちを常に複数の眼差しで見守り、多面的多角的な捉えで子どもたち理解を深め、よさや可能性を引き出すようにしているか。 ・自分を学級を学年を拓き、喜びや達成感を分かち合い、つながり合いながらチームで支援できるようにしているか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
・子どもたち同士で互いの考えを聴き合う場面を授業の中で意図的に設定し取り組んできた。友達の考えと自分の考えをつなげ、見方・考え方を広め、深める児童の姿が多く見られるようになった。		○			・授業の中で、ペアでやグループによる「伝え合い」「聴き合い」の場面を意図的に設定する。また、PCを活用し、各自の考えを共有できる場を設定していく。
・「学習問題」「まとめ」を板書し、授業の流れを明確にしたことで、苦手意識のある児童にとって分かりやすい学びの場となった。また、Chromebookを活用し友達の考えを共有することで、学びの幅が広がった。		○			・教科担任制や専科制・交換授業を実施し、教師の専門性を生かしたカリキュラムマネジメントを行う。
・年間を通して「あいさつ名人」の自己評価カードを活用したことで、自分のあいさつについて見つめ直すことができ、自分の成長を自覚することができた。また、先言後礼を意識して子どもたちが増えた。		○			・児童会による「あいさつ運動」を定期的に行い、全校児童があいさつによる「つながり」よさを感じられる場をつくっていく。また、屋の放送であいさつのよい学級・児童を発表し、自己肯定感を高められるようにする。
・他者のよさに目を向けることのできる「幸せのパケツ」などの活動を行ったことで、相手を思いやる心を育むことができた。また、「あさかせ祭」など異年齢でのペア学級の取り組みにより、つながることのよさを感じられる児童が増えた。		○			・教師が積極的にプラス言葉を使い、温かな言葉の飛び交う学校環境を創っていく。また、異学年との交流を通して、高学年は低学年に優しく接する行動、低学年は高学年への憧れをもてるようにする。
・後期は、縄跳びを中心に全校体育を行い、いろいろな跳び方に挑戦する子どもたちの姿が多く見られた。休み時間にも積極的に仲間と縄跳びを楽しむ姿があった。		○			・体力テストの結果から、体力向上に向けた重点を決め出し、全校体育や体育の授業において積極的に取り組む。体力テストで取り組みの成果を検証する。
・自分の分担をしっかりとめあてをもって、時間いっぱい取り組める児童が増えた。また、自主的に役割以外に気付いて取り組める姿も見られるようになった。		○			・掃除分担を明確にし、具体的な掃除の仕方を指導・提示し、責任感をもって取り組めるようにする。
・「せぎの学習」や「まゆ細工」「地域の偉人学習」など、地域の方から学ぶ活動を積極的に行うことができ、地域のよさを実感することができた。		○			・教科や総合的な学習の中で、地域の方から学べる場の設定し、年間カリキュラムに位置づける。また、年度始めに、地域講師・ボランティアの協力を地域に呼びかける。
・保護者に対しては、学校だより・学級・学年だよりの定期的な発行を行った。学校だよりの発行やホームページの更新の回数を昨年度よりも増やし、学校の様子を保護者だけでなく地域の方にもこまめに知らせることができた。		○			・学校のホームページを活用して、児童の学校生活での活動を積極的に発信していく。また、個別に電話連絡、家庭訪問、個別懇談を行い、家庭との情報共有、連携を行っていく。
・QUを活用したり、児童との相談の時間を設けたりしたことで、児童理解でき子どもの思いに寄り添ったかわりへとつながった。		○			・学年会・職員会議・職員研修など様々な場で児童の情報を共有し、児童理解を図っていく。また、教師間による授業公開や授業参観を積極的に行い、教師観を高める場を積極的ににつくっていく。QUを複数回実施し、児童理解に活用していく。
・学年内でシャッフル給食やシャッフル道徳を行い、複数の職員のみで児童理解を行い情報共有することで、子どもたちのよさや可能性を伸ばす支援へとつなげることができた。		○			・交換授業や学年集会・シャッフル道徳・シャッフル給食を行い、学年の児童を学級担任だけでなく学年すべての教員が支援して体制に取り組んでいく。

※評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった